

令和5年度 第3回・岡山県地方独立行政法人評価委員会 議事概要

1 日時

令和5年7月25日（火）13:00～15:00

2 場所

ピュアリティまきび（岡山市北区下石井2-6-41）

3 出席委員

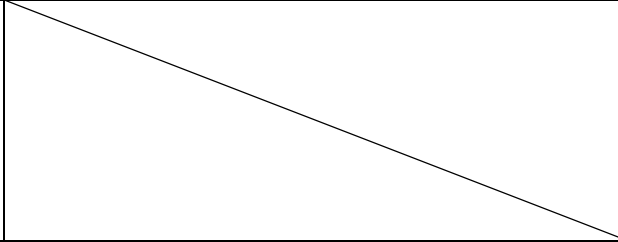
萩原委員長、小田委員、清水委員、秋山専門委員、桑原専門委員

4 議事

- (1) 公立大学法人岡山県立大学 令和4年度に係る業務の実績に関する評価結果
- (2) " 第3期中期目標期間終了時に見込まれる業務の実績に関する評価結果

5 内容

総務学事課から説明後、質疑応答

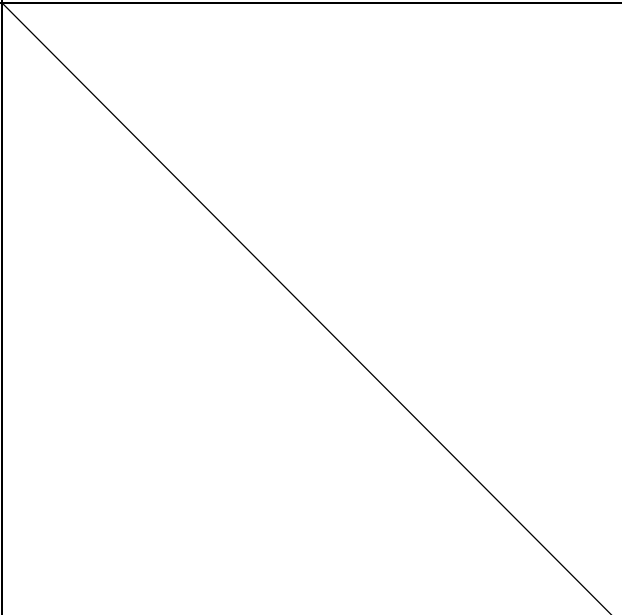
委員発言要旨	大学・事務局発言要旨
<p>内容については、法人自己評価と評価委員会評価は同じ数字であり、第2回評価委員会で述べた意見についても、資料2、資料4の委員会参考意見に記載していただいているので問題ないと思う。</p>	
<p>[資料1]、[資料3] の「6(2)特筆すべき項目」について、「特筆すべき項目」ということなので良いことが書かれているのかと思ったが、ネガティブなことも書かれている。委員会として評価した点と課題として捉えている点を分けて書いた方が読みやすいのではないかと感じた。フォーマットの変更を検討してはどうか。</p>	<p>過去の評価結果も参考にしながら資料を作成した。「特筆すべき」ということなので、評価が4点、2点のものを中心に、ポジティブ・ネガティブ含めての「特筆」という整理で記載している。</p>
<p>この評価結果を9月の県議会へ報告することになるが、このままのフォーマットでいくのか。</p>	<p>今回は時間的に余裕もないことから、この形で進めさせていただければと考えている。</p>
<p>内容に対して、特段意見はない。 生成AIについて、もう少し真剣に考えていただきたい。情報工学部の学生に限らず、社会福祉士など活用できる場面は多々ある。非常に良いツールなので、これを大学で教えない手はないと思う。ぜひ検討していただきたい。</p>	<p>非常に重要なところをご指摘いただいたと思っている。そろそろ県立大学も生成AIに対する方針を示さなければならないと考えている。先日、文部科学省が生成AIに関する通知を発出したが、それ以前に方針を出している大学、方針を出していない大学、それぞれの学長に話を伺ったとこ</p>

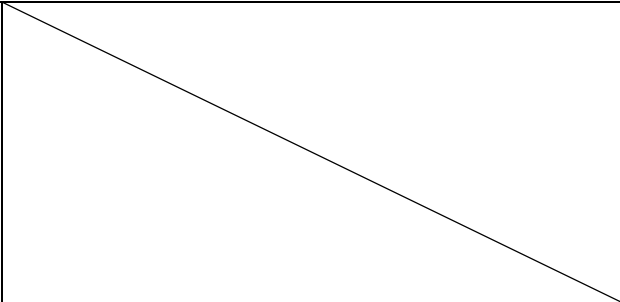
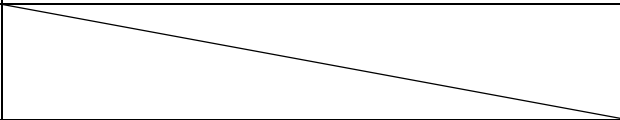
ろ、生成A Iがどういうものかきっちり把握してから方針を出した方が良いのではないかという意見があり、私もその意見に賛同している。学内のFDセミナー等で生成A Iに長けた方を招いて話を聞きながら考えていきたい。使えるものを使わないとどんどん遅れてしまう一方で、問題を自分で考え解決していく力が備わっていないと大変なことになる。その力を付けるのが大学だと思っているので、その基本姿勢で取り組みたい。また、学生から問われる具体的な問題に対応できるマニュアルを作成できれば良いと思っている。職員にも仕事の効率化のために生成A Iを積極的に使ってほしいが、フェイクニュースにならないように倫理観を持ち、判断しながら使う必要がある。デザイン学部で生成A Iをどう使うかはかなり重い問題で、そういったことも含め慎重に考えていく必要がある、早々に本学の基本的な考え方は示したいと思っている。

出てきたツールを使わない手はないという考えが基本にあるが、現状、問題もあることを認識している。大学教育の目的の一つにクリティカルシンキング(批判的に物事を考える力)の養成があるが、生成A Iの使い方によっては、考えなくても結論が出せるため、その妨げになり得る。また、生成A Iから得た情報が正しいか確認することも必要であり、生成A Iから得た情報がすべて正しいわけでもないというところが、使う際の難しさだと思っている。最近ではレポートがすべてワープロになっているため、生成A Iが作成したレポートを、内容をほとんど読まずに少しだけ変えて提出するということが起きるのではないかと思っている。対策として、逆行するようだが、来年度くらいからレポートを手書きにしようかと思っている。そうすれ

ば、学生は必ず1回は書き写すために読むので、多少の学習にはなると思っている。「考える」ということを大学で教えることを目標としているにもかかわらず、生成AIを使ったときに、その考える力が低下する懸念をどうすべきか。指針として出す場合は、そのようなことを学生に伝わるようにして、使い方を自分でよく考えながら使ってほしいと思っている。

生成AIに論文を書かせることや授業の課題の質問に答えさせることを試してみたが、現時点では完成度としては少し低い結果しか出ていない。やはり、自分でよく読んで修正しないといけないが、たたき台としては非常に良い。生成AIが作成したものを自分でチェックして修正できる能力がある人にとっては、非常に良いツールだ。生成AIを使わない手はないと思うが、自分でチェックして完成品に仕上げていくことを一からやった人でないと、生成AIが作成したものを修正することは難しいと思うので、一度はそういう経験をした後に使っていくという方法が現在のところ一番良いのではないかと思う。また、生成AIを使用したレポート等の提出があったときに、教員がそれをチェックする能力、今までに経験したことのない能力を要求されるのではないかと思う。

	<p>基礎実験の指導をしているが、最近の学生を見ていると、答えを早く知りたがるという傾向がある。教員は答えに行きつく過程を非常に大事に思っているが、学生はそこを飛ばして早く答えを知りたいという傾向がある。生成A Iは、答えを導くには非常に良いツールだが、答えを導くまでの過程を重視したいと思っている。教育・出版関係の企業が開発したA Iツールのように、課題に対して答えは出てこないが、ヒントを与えてくれる、そういった使い方も一つの方法だと思う。教員が学生に対して答えを導く過程や考える力の指導にあたって、そういうツールが使えたら良いと思っているが、実際どうしたら良いかは、様々な情報を仕入れながら今後対策をとっていきたいと考えている。</p>
<p>9月の県議会で議員の方から生成A Iについての質問があるかもしれない。</p>	<p>6月の県議会で同じような質問を受けた。5月の評価委員会で、いろいろな方の意見を伺いながら教職員や学生用の指針を考えていかなければいけない、というお話があったので、6月の県議会の質問に対しては、そのような内容を大学から聞いており、その中で様々な課題があることについては今後議論が深められていくと考えていると答弁している。</p>
<p>前回の委員会では、全体的にいろいろな点について質問を行い、回答をいただいているので、評価結果（案）に対して異論はない。</p> <p>〔資料3〕の「6（2）特筆すべき項目」については、「特筆」というと特に優れた点が記載してあるのかと思ってしまいが、実際には必ずしもそうではないものも含まれている。また、評価「3」が付いているものの中で、取り上げられている項目とそうでない項目があるが、その根拠が分からない。評価「4」の非常に順調に進んでいるものと、評価「2」の残りの2年間で</p>	

<p>頑張らないといけないものが明確に分かるような書き方が良いと思う。</p> <p>こうした評価が第3期中期目標期間残りの1年半で、さらなる改善につながるように意見を述べるのが委員会の役目だと思っている。</p>	
<p>委員の意見を踏まえて、指摘のあった箇所について、書き方を変更するのか。</p>	<p>今は項目ごとに記載しているため、良い点と改善点が混在した形にはなっているが、これまで県議会への報告も同じ形で行っているため、今回も同じようにさせていただけたらと思う。その中で、書き方としてわかりやすく表現するという点については、検討させていただければと思う。</p>
<p>書き方を少し変えるかもしれないが、委員長と事務局で調整させてほしい。</p>	
<p>スチューデント・アシスタント（SA）について、どういった学び方でどういった効果があるのか。</p>	<p>国立大学では早くから導入しているが、県大では、スチューデント・アシスタントの使い方にまだ慣れていないように見受けられる。授業の中で学生が先生の指導のもと補助することで、学生にとっては後輩を指導することにより理解が深まり、先生も学生を指導するという点で上手く循環している。県大でも、SAの制度の導入がようやく始まっている。学生が教えながら学んでいくことは非常に重要だが、理解せずに間違っただけを教えると大変なことになるので、その教育が非常に重要になる。文部科学省からもそこをきっちりとやるように言われているので、我々も気を付けてやらないといけないと思っている。</p> <p>学生の実験では、教員が指導しつつ、研究室の学生にも手伝ってもらっている。教員が研究室の学生に対して指導内容の予行演習を行うが、想定質問を投げかけてもなかなか答えが返ってこない。分かったつもりになっているが実際は理解できていない学生が多い。人に教えるということは、しっかりと理解していないとでき</p>

	<p>ないということを学生が実感しているようで、それが与える教育効果は非常に大きいと感じている。</p> <p>国立大学で行われているティーチング・アシスタント（TA）にはいくつかの目的がある。一つは、授業の内容をかみ砕いて同世代に伝えてもらうことで、学生の理解を深めること。また、TAとして教えることで、将来指導的な立場に立つ人にとって、指導することに対してどういう態度で臨めば良いかが学べること。教えることは、自分自身が理解できていないと教えられないので、それを実感して自分なりの工夫ややり方を身につけて、なおかつ、その分野の知識を充実させること。SAも同じような目的で実施されていると思う。副学長の話だと学生はそう感じているので、次にどう工夫するかというところまで学生同士で伝われば、他の分野でも同じような立場になったときに経験が活かせるようになる、と期待している。</p>
<p>SAの活用は、学生自身の成長や学びにつながる事が一番の目的だ。先生のための制度ではなく、学生たちが成長するための学びの機会である。グループディスカッション等でのファシリテーターとしての経験は学生の成長にも非常に貢献するものだと思う。</p> <p>教員評価について、評価をした後にどのようにフィードバックしているのか。処遇へ反映させているのか。</p>	<p>処遇へ反映させていない。フィードバックについては、少し問題があると判定された教員に関しては、学部長等が面談をして、原因や今後の改善点など意見交換をしてアドバイスをすることとしている。</p>
<p>委員から出された意見について、いくらか書き方を修正するかもしれないが、原則として現在のフォーマットで県議会に報告したいと思うので、私が最後に確認させていただく。各委員には、事務局から委員長が確認したものを提供してください。</p>	